聖書の学び資料 牧師 森 言一郎　　年　月　日

《創世記

9章1節～28節 》

◆ 読んで・聴いて 思い巡らそう

【 メ モ ・ Memo 】

〇心に届いたみ言葉
〇時代への呼びかけ
〇「悔い改め」
〇気付き
〇教会に示されたこと
〇イエスさまとの関連

◆ 聖書味読 翻訳の違い

創世記 9章18節～29節
『 リビングバイブル 』のみ

【ノアの息子たち】の箇所

※理解しにくい箇所でもあるので、ＬＢだけを抜粋

18-19節

ノアの三人の息子はセム、ハム、ヤペテで、このうちハムがカナン人の先祖に当たります。この三人から世界のあらゆる国民が出たのです。

20-21節

さて、ノアは農夫となり、ぶどうを栽培してぶどう酒を作るようになりました。ある日、彼はぶどう酒に酔って前後不覚になり、裸のままテントの中で寝入ってしまいました。

22-23節

その醜態を見たハムはあわてて外に飛び出し、二人の兄に、父親が裸で寝ていることを話しました。 話を聞いたセムとヤペテは父の服を取りに行き、その服を自分たちの肩にかけ、二人並んでうしろ向きのままそろそろとテントに入りました。そして、父親の裸を見ないように注意しながら、服を肩から落として、父の体にかけたのです。

24-25節

ノアは酔いがさめて起き上がると、とっさに何があったのか悟りました。末の息子ハムがしたことを知った時、彼はこう言いました。

「カナン人〔ハムの子カナンから出た民族〕はのろわれよ。セムとヤペテの奴隷となって仕えよ。」

26-27節

また、こう言いました。

「神がセムを祝福なさるように。カナンは彼の奴隷となれ。神がヤペテを祝福し、セムの繁栄にあずかる者としてくださるように。

カナンは彼の奴隷となれ。」

28-29節

ノアは洪水のあとさらに三百五十年生き、九百五十歳で死にました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◆ み言葉を生き　み言葉を伝えるために

「洪水による裁き」によって一新された人間の歴史が、９章から始まる。

① ９章の構成　大枠で３部

1) 1-7 節　祝福と戒め

2) 8-17 節　神の契約

3) 18-29 節　ノアの晩年

② 創世記1章28節～29節と9章1節～7節の違いは何か。いずれも「創造」のみ言葉興味深い違いがある。

(ア) 2 節　動物と人間の間に「恐れおののき」が生じる。

(イ) 3 節　動物を「食べ物」とされる。

(ウ) 5 節　殺人の危険性に対する警戒・警告

(エ) 6節　それでもなお、人が神によって、「神にかたどって創造された」ことが念押しされる。

【創世記 1: 28- 29】

1:28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」29 神は言われた。「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。

【創世記 9: 1- 7】※洪水後の再創造

9:1 神はノアと彼の息子たちを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちよ。2 地のすべての獣と空のすべての鳥は、地を這うすべてのものと海のすべての魚と共に、***あなたたちの前に恐れおののき、***あなたたちの手にゆだねられる。3 ***動いている命あるものは、すべてあなたたちの食糧とするがよい。***わたしはこれらすべてのものを、青草と同じようにあなたたちに与える。4 ただし、肉は命である血を含んだまま食べてはならない。5 また、***あなたたちの命である血が流された場合、***わたしは賠償を要求する。いかなる獣からも要求する。***人間どうしの血については、人間から人間の命を賠償として要求する。***6 人の血を流す者は／人によって自分の血を流される。***人は神にかたどって造られた***からだ。7 あなたたちは産めよ、増えよ／地に群がり、地に増えよ。」

③ 「契約」が８度（9，10，11，12，15，17）繰り返し用いられる。

結論的にいえることは、契約とは神の約束であり、軽い約束ではない、重大な約束のことである。この契約は、神が一方的に定

められたもの。しかし、それは神の身勝手ではない。人間のふりになることは実際何一つない。神の契約は恵みの契約なのである。

創世記で「最初に契約が出て来た」のは、箱舟造りの詳細が語られた流れの中での、6:18で**「わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。」**だった。

それに続く「契約」の語の登場。内容は以下に分類されるが、契約であると同時に、宣言でもあることに気付く。
(ア)11 節、15 節　再び洪水によって滅ぼすことはない。
(イ)10，11，12，15，16，17 節 この契約はすべての生き物に及ぶ。
(ウ)12，13、17 節　さらに契約の「しるし」まで与えられる。すなわち「雲の中にわたしの虹を置く」と。「虹が現れると・・・・わたしは、あなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める」と宣言される。

④ 9章の祝福の言葉の背後にある大切な警告

それは、5 節の「人間は人間を殺してはならない」という警告である。神の形に創られているのであり、人を殺すことは、神の形を破壊することになる。

【新改訳2017】9:6 人の血を流す者は、人によって血を流される。神は人を神のかたちとして造ったからである。

【口語訳】9:6 人の血を流すものは、人に血を流される、／神が自分のかたちに人を造られたゆえに。

十戒においても、人間同士の倫理的な戒めとして、最初に「殺してはならない」（出エジプト記 20: 13）が出てくることになる。

⑤ 「虹」に私たちは何を見ているだろうか

神さまはこの時、美しい虹を見せ、「契約の徴」とされた。私たちも「虹」を見るたびに神の約束を思い起こしたい。「虹」の原語ケシェスは「弓」を表す語である。このあとにもふれるが、「虹」は「神の弓」と見られていた。

しかもそれは「永遠の契約」であると言われる。「永遠の契約」は、この箇所だけに示されるものではないことに注意が必要。ただし、**虹の契約の素晴らしいところは、特定の民や家系の選びではなく、全人類および自然が視野に置かれていること！**である。

創世記 17: 7 他「アブラハム契約」、出エジプト記 31: 16「シナイ契約」、サムエル記下 13: 5 他「ダビデ契約」、レビ記 24: 8 他「アロン契約」がある。

⑥ 榊原康夫先生の「虹の契約」に対する読み方

「虹」は、雨が続かず光が射してきたからこそ、生じるのです。神が契約のゆえに雨をとどめ、契約を思い起こす（覚える、思い出す）、つまり効力をあらしめたもうたからこそ、「虹」が生じます。神は「私はこれを見て・・・契約を思い起こす」と言われるが、「虹」は神のためだけのものであれば、そのようなことをノアに語る必要はなかったのです。

それをノアに語られたということは人々が「虹」を仰ぐたびごとに、神は、契約履行に責任をとり、神が契約を成就しつつありたもう、という神の恵みを仰がなければならないことを意味する。

⑦ 「虹」の契約の奥義

この語は、ノアの契約以外にただ一度、「虹」と訳される以外、すべて「弓」と訳される。虹は神の裁きと怒りが去ったあとの、

平和と憩いの象徴なのである。

■聖書辞典の「虹」　〈ヘブル語〉「ケシェス」は、元来「弓」を意味する語である。ノアとの契約において神は「虹」をその契約のしるしとされた。自然現象としての虹はそれ以前からあったが、この時から新しい意味が与えられたのである。聖書には神が悪人に対して弓を向けられるという比喩がある（詩篇7:13, ハバクク書3:9）。したがって、大空に「弓＝虹」がおかれることは、神の怒りが過ぎたことを示す。また、エゼキエル書1:28は「神の栄光の描写として虹」のはなやかな美しさを引き合いに出している。〈新約・ギリシア語〉「イリス」はヨハネ黙示録4:3、10:1で、「天の栄光」の描写に用いられる。

⑧ やがてノアは「農夫」となり、「ぶどう畑」を作ったという。ノアは「無垢」な正しい者であったけれど、ぶどう酒を飲んで酔い、裸になって寝ている。

そんな父の様子を「ハム」（「カナンの父」とも表現される）は外にいたセムとヤフェトに告げる。それを聞いたセムとヤフェトは、顔をそむけたまま、着物を掛けて裸を覆う。26 節～ 27 節に依れば、（新共同訳は読みにくいが）セムとヤフェトは祝福される。

しかし、「ハム」の子孫である「カナン」は呪われる。「カナンはセムの奴隷となれ」「カナンはヤフェトの奴隷となれ」とある。

＊

◆佐藤 彰牧師は『まるかじり創世記』を参照しながら、考えたい。

※森牧師 大幅加筆

ノアはぶどう酒に酔い、天幕の中で裸になりました（21節）。

理性を失い、息子たちの前で我を忘れて裸になったこと。これは、どう理由づけを試みても、父親であるノア自身の罪、醜態でした。

けれども、それはそれとして、その、我を忘れて酔いに任せた行動をとる父の姿に、二種類の息子たちの対応があったことを聖書は記します。

一つは「ハム」。22節「自分の父の裸を見て、外にいた二人の兄弟に告げ」ました。これは、24-25節から理解できるように、罪の傷口を広げました。

二つ目は「セムとヤフェト」。聖書の記述に依れば、彼らは誰にも言いふらすことなく、自らの父の裸を直視することもなく、とにかく、そのときの父の行動が最小限度に止められるようにと、火消しのように後ろ向きに父のもとへ寄り、そっと着物で裸の父を覆ったのです。

ノアの罪は否めないとして、それにどう対処するのかを考えさせられます。面白おかしく取り上げ、噂にして言い広め、ある種の罪を暴く快感に身を任せて浸ることもできます。

しかし、相手の恥を覆い、口外せず、それ以上にその人の罪が膨れたり、広がったりしないように努力する対応もあるのです。

セムとヤフェトが、父ノアのことを考え、思いやる姿勢をもっていることに気付かされます。放っておけば人の罪を話の種とし、噂話を楽しむようなところがあるのが人間であることを自覚・自戒しましょう。火に油ではない姿勢をもつ者として、一役を買う者になりたいものです。

（以上）